



# 10年で何を培い、何を未来に繋いでいくのか

## ― 災害に関する取組みのこれまでとこれから ―

調整や対応に追われているような状態でした。当時、現地では活動した職員は「マニュアルにはない状況への臨機応変な対応と判断の連続であり、平時の積み重ねが非常時の対応につながる」と話します。

一方、大阪では何かできることがないかと市民の方から多数の問い合わせをいただき、支援物資の仕分けボランティアやボランティアバスへの参加、県外避難者向けイベントや復興支援イベントの運営ボランティア

等、多くの場面で力を寄せていただきました。時間の経過とともにニーズも多様化・個別化し、10年が経過した今は大阪府下県外避難者支援団体等連絡協議会（ホッとネットおおさか）の事務局として県外避難者への支援活動に取り組んでいます。

### 多発化する災害、地元も被災地に

東日本大震災以降、大阪府社協として職員を派遣した災害は

平成30年6月18日の大阪府北部地震。大阪府北部で最大震度6弱を観測した地震は通勤途上となる時間帯に発生しました。

大阪も二度被災し、地元での支援活動も展開してきました。市社協ではこの10年間の多様な経験を教訓に、いつか来る災害に対して、平時からできる備えを進めています。

### 未曾有の大災害

東日本大震災が起きて5日後の3月16日には先遣隊として職員5名を仙台市社協に派遣し、現地での支援活動を開始しました。震災直後の災害ボランティアセンター（以下、災害VC）立ちあげ期ということもあり、現地は、震災後休むことなく早朝から夜遅くまで関係機関との



大阪の善意がたくさん集まった街頭募金（熊本地震）



発災当日、職員の安否確認や各区社協から報告された情報を集約（大阪府北部地震）

市社協でも当日午前9時までに参集できた人数はわずか8人。限られた人員の中、発災3時間後には災害対策本部を設置し、職員の安否確認や各区の情報収集に努めました。揺れが強かった地域では困りごとを抱えた方が声をあげられるようにチラシ

### H23(2011)年からR3(2021)年の主な出来事

R3 (70)	R2 (69)	H30 (67)	H29 (66)	H27 (64)	H25 (62)	H24 (61)	H23 (60)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域福祉活動・会議でもオンラインツールの活用が進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症流行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大阪府北部地震（6月）、西日本豪雨災害（7月）、台風第21号（9月）で大阪も被災</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「生活支援体制整備事業」全区展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「生活困窮者自立支援事業」開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東日本大震災の復興支援</li> <li>○地域活動協議会の設立が進む</li> <li>○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止</li> </ul>

【この10年で市社協が職員を派遣した災害】

年	災害	主な派遣先	派遣期間	派遣延べ人数
平成23年	東日本大震災	宮城県 仙台市、気仙沼市	3月16日～11月1日	111人
平成23年	台風12号	和歌山県 新宮市	9月9日～10月11日	24人
平成26年	平成26年8月豪雨	京都府 福知山市	8月21日～8月26日	2人
平成28年	熊本地震	熊本県 菊陽町、熊本市	4月23日～7月17日	28人
平成30年	大阪府北部地震	大阪府 高槻市	6月28日～7月16日	9人
平成30年	平成30年7月豪雨	岡山県 岡山市、倉敷市	7月20日～10月14日	40人
令和元年	台風19号	福島県 郡山市	10月25日～11月17日	6人

をポスティングしていくと、家具が転倒して実は困っている、そんな声が寄せられはじめ、元の大学生ボランティアに家具の搬出を依頼して活動をマッチングする等、困り事を抱えた方々に寄り添い、市内で約24



各所から届く情報や連絡を、模造紙に書き出して共有 (市社協での災害対策本部設置訓練)

ニーズ受付No.	処理状況	氏名	依頼者概要	活動内容	必要人数	必要物資	備考
1				家具の搬出 タンスのベタ上へ落ちてきたベッド使用	男 2-3人		午前中のみ可能
2				家具の搬出 天井までのタンスの背を向け搬出に不慣れな高齢者	2-3人		未だ搬出が確認できず、V6の搬出が確認できず
3				家具の搬出(傾き) スチール製本棚の搬出 本棚の移動が必要	2-3人		次の作業でさらに下駄の取付けが必要、早急な対応を要
4				家具の移動 タンスの移動	1人		日中、仕事別

0件のニーズに対応しました。地震災害をとおして、安否確認に必要となる要援護者名簿の活用方法や初動対応における課題も浮き彫りになったことから、今後の教訓とすべく、市社協内に対応を検証するプロジェクトチームを発足。検証を実施して、災害時初期行動計画を策定する等、次なる災害への備えを進めています。

また、同年9月4日に近畿地方を横断した台風21号でも大阪は被災地となりました。暴風による被害、特に屋根への被害が深刻でした。ブルーシートを区役所から配付されても屋根に張

ることができない地域住民も多く、専門的な対応が必要でした。これを教訓に、高所作業を日頃から仕事としている人等を対象に、屋根のシート張り講習会を開催しテクニカルボランティアの育成等に取り組みました。

社協職員は地域住民の生活復旧に向けて、その専門性を発揮し、被災者支援活動を行う社会的使命があります。いつ来るかわからない災害に、いつでも社会的使命を果たせるように、市社協では今できることに取り組

培った経験を未来に託す

今回の地震によるお困りごとの情報を集めています

☆ 今般に困っています ☆  
今回の地震被害による 家の片づけ、転倒した家具を直す作業 など

☆ ボランティアを希望する方へ ☆  
ボランティアの皆さんは、被災者のお手伝いをしたいという気持ちから集まっています。なんでもできるわけではないということ、以下の点をご了承ください。  
◎専門的技術を要することや危険を伴う作業など。 ◎要望にお応えできない場合もあります。  
◎ボランティアの都合上、すぐにご要望にお応えできない場合があります。  
◎ボランティアへのお礼は不要です。貴重品の用紙も不要です。

この地域や活動に不慣れなボランティアさんもおられます。ご理解の程よろしくお願いします。

☆ 連絡先 ☆  
東淀川区で「東淀川区社会福祉協議会」まで情報をお寄せください。  
※お問い合わせ専用番号

☆ 受付時間 ☆  
9:00 ~ 17:00 (土日祝日を除く)

東淀川区社会福祉協議会  
(所在地) 東淀川区菅原4-4-37  
(電話番号) 問い合わせ: 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇  
<お問い合わせ専用番号>

東淀川区社協がポスティングしたチラシ (大阪府北部地震)

この10年間の災害支援活動を通して感じているのは「災害時には平時のつながりや備えが役に立つ」ということ。平時のつながりがあったからこそ、犠

牲者を出すことがなかったエピソードもよく耳にしました。市社協ではこれまで培った経験を未来に託すべく、職員の対応力向上、環境整備、ネットワークの構築等に努め、多発化、激甚化する災害への備えをすすめています。

災害に特化した取組みだけでなく、市・区社協事業は平時のつながりづくりを推進するものであり、地域で実施されている地域福祉活動はその最前線と言えます。コロナ禍による影響を受けて、地域福祉活動は制限を受け、また、大規模災害であっても外部からの支援は受けにくい現在の状況に対応していくべく、これまでの取組みを継続・発展させ、これからも全力を注いで、災害時への取組みを進めていきます。

【市社協における主な取組み内容】

職員の対応力向上	災害対策本部設置訓練、学習会、災害VC運営者研修の実施 等
環境整備	BCP策定、マニュアル類の整備、行政や諸団体との災害に関する協定の見直しや締結 等
ネットワークの構築	おおさか災害支援ネットワークに世話役団体として参画 等